

令和元年度事業報告

1. 総会及び理事会等会議の開催

種 別	期 日	会 場	出席者数	決 議 事 項 等
監 事 会	31. 4. 23	ハム・ソーセージ会館	監事 3名	平成30年度収支決算等に関する事項
理 事 会	31. 4. 23	ハム・ソーセージ会館	理事 16名 監事 3名	平成30年度事業報告及び決算について 基金の一部返還及び剰余金処分計算書承認の件 定時社員総会提出議案について
理 事 会	元. 5. 29	北海道札幌市「札幌グランドホテル」	理事 14名 監事 4名	委員会委員の委嘱について
第16回定時社員総会	同 上	同 上	71名 (委任状による出席48名を含む)	①平成30年度事業報告の件 ②平成30年度決算報告書承認の件 ③基金の一部返還及び剰余金処分計算書承認の件 ④令和元年度事業計画報告の件 ⑤令和元年度収支予算報告の件 ⑥入社基準決定の件 ⑦令和元年度会費及び徴収方法決定の件 ⑧令和元年度加入金決定の件 ⑨令和元年度借入金最高限度決定の件 ⑩常勤理事報酬最高限度決定の件 ⑪理事1名退任に伴う理事1名補選の件
理 事 会	元. 9. 25	東京都千代田区「東京會館」	理事 18名 監事 4名	経理状況報告について 社員の退社及び入社について
理 事 会	2. 1. 29	東京都港区「浜松町東京會館」	理事 17名 監事 3名	経理状況報告について
理 事 会	2. 3. 25		決議の省略方式 (理事全員の賛成、全監事の同意)	令和2年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

J A S 認証業務評価委員会 (書面)	2.3.17		委員 4名	本研究所の審査、認証及び意思決定プロセスの公平性について 公平性のリスク分析の結果に対する評価
登録検査機関 検査業務評価委員会(書面)	同上		委員 4名	厚生労働省登録検査機関に係る業務の信頼性確保について

## 2. 事業に関する事項

- (1) 平成16年に(社)日本食肉加工協会から当法人に抛出された基金(1億5千万円)のうち同協会から返還要請があった5千万円について、令和元年5月29日開催の第16回定時社員総会で承認されたことから、6月20日に同協会に返還した。
- (2) 平成31年4月17日～19日の3日間、東京ビッグサイト西4ホールで開催された「2019 食肉産業展」に(一社)日本食肉加工協会、日本ハム・ソーセージ工業協同組合と共同で出展し、J A S 認証制度、食肉のおいしさ評価などを紹介した。
- (3) 令和元年5月29日、北海道札幌市「札幌グランドホテル」で開催の第16回定時社員総会で、理事1名の退任に伴う理事1名の補選が行われた結果、根岸晴夫氏が理事に選任された。
- (4) 令和元年6月26日、役員の変更登記を完了した。
- (5) ベーコン類等7品目のJAS規格について、令和元年7月9日の農林水産省JAS調査会で現行規格をそのまま維持する案が了承され、8月19日に「確認」する旨が告示された。
- (6) 令和元年12月10日、11日(独法)農林水産消費安全技術センター(FAMIC)によるJAS法に基づくJAS登録認証機関としての事業所調査及び製品検査施設調査を受けた。不適合は無く、登録認証機関としての体制が維持、運用されていると判定された。
- (7) 令和元年12月3日に、ISO17025審査登録機関であるペリジョンソフラボラトリー アクレディテーション インク(PJLA)によるISO17025の2017年版のアップグレード審査を受け内容が適切であると認められた。
- (8) 令和元年9月4日に厚生労働省関東信越厚生局による登録検査機関の定期監査が行われた。10月2日付けで試薬の管理、検査の操作等の管理及び精度管理に関し文書による改善指摘を受けたが、12月13日付けで厚生局に改善措置を報告し了承された。
- (9) JRA事業「海外・国産豚肉肉質評価等推進事業」(令和元年度～2年度)に基づき、海外産豚肉と国産豚肉の理化学分析、物理的性状分析、官能検査を実施するとともに、推進委員会を2回(6月、3月)開催した。
- (10) 国産冷蔵豚肉の輸出促進のため、前年度に引き続き、(一社)日本養豚協会との業務請負契約により、わが国の冷蔵豚肉の賞味期限に関する調査試験を実施した。
- (11) 令和2年4月からの食品表示法に基づく栄養成分表示の完全義務化に向けて円滑な対応に資するため、前年度に引き続き(公社)日本食肉協議会の助成を受け「食肉製品成分表示義務化対応円滑化推進事業」を実施し、栄養成分分析調査による事業者へ

の支援を行った。

- (12) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合の「小規模生産体制強化事業」(2か年事業)の実施に当たり、HACCPについて技術指導を希望する小規模事業者に指導員を派遣して指導・助言を行い協力した。
- (13) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合と業務委託契約を結び、海外食肉製品の品質評価(栄養成分等、物性検査、官能検査など)を行った。
- (14) (一社)日本食肉加工協会及びハムソーセージ類公正取引協議会と協力し、若手社員を対象として、食品表示基準、食品衛生法、JAS規格及びハム・ソーセージ類の表示に関する公正競争規約等についての表示勉強会を2回(10月、2月)開催した。
- (15) (一社)日本食肉加工協会主催の「HACCPシステムに基づく衛生管理講習会(食肉製品)」に技術協力した。

### 3. 社員に関する事項(令和2年3月31日現在)

期 別	社 員 種 類					
	正社員	正社員甲	正社員乙	正社員丙	賛助社員	総 計
前期末現在	79	2	0	0	2	83
今期入社	1	0	0	0	0	1
今期退社	1	0	0	0	0	1
今期末現在	79	2	0	0	2	83

(注) 正社員：(一社)日本食肉加工協会及びその会員  
正社員甲：食肉製品製造を事業とする者  
正社員乙：食肉製品製造を事業の一部として経営する者  
正社員丙：食肉加工を事業とする者  
賛助社員：食肉加工あるいは食肉製品製造の業に関連する事業を行なう者

### 4. 事業の概要

#### (1) JASに関する業務

##### ア) 令和元年度におけるJAS格付状況

区 分	格付数量	対前年度比
ベーコン類、ハム類、プレスハム及びソーセージ	127,855トン	1.4%増
熟成ハム類、熟成ソーセージ類及び熟成ベーコン類	26,621トン	2.8%増
ハンバーガーパティ	31,818トン	2.3%減
チルドハンバーグステーキ	1,692トン	5.8%増
チルドミートボール	5.8トン	37.0%増

イ) J A S 認証工場数 (令和2年3月31日現在)

農林物資 期 別	ベーコン類等	熟成ハム類等	ハンバーガー パティ	チルドハンバーグ ステーキ	チルドミート ボール	合 計
平成30年度末	87*	58*	3	5*	1*	154
認 証	2	1	0	0	0	3
辞 退	2	1	0	1	0	4
令和元年度末	87*	58*	3	4*	1*	153

\*: 外国製造業者1を含む。

ウ) 熟成ハム類、熟成ソーセージ類及び熟成ベーコン類に用いられているこれまでの特定 J A S マークが、平成30年12月28日付で、新たなデザイン(特色 J A S マーク)に改正された。経過措置期間は令和4年(2022年)3月31日までとされている。

エ) J A S 認証工場は、令和元年度定期確認調査において、すべて適正であった。一部の工場については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施を延期した。また、当研究所が行う J A S 認証工場定期確認調査の現場に、FAMIC が立ち会う調査は、延べ2工場について実施され、不適合はなかった。

オ) J A S 証票を印刷できる登録印刷工場は、ベーコン類等114工場、熟成ハム類等74工場、ハンバーガーパティ、チルドハンバーグステーキ及びチルドミートボール30工場となった。

カ) 品質管理担当者等講習会の開催

区 分	期 日	会 場	受講者数
品質管理担当者講習会	令和元年7.18	EBiS303 カンファレンススペース B, C (東京都渋谷区)	58名
	令和元年7.19	新大阪丸ビル新館(大阪市)	30名
品質管理責任者等専門講習会	令和2年1.30 ~31	グランパークカンファレンス401ホール(東京都品川区)	54名
格付検査担当者技能研修会	令和2年2.1	ハム・ソーセージ会館	8名

(2) 一般依頼検査等に関する業務

ア) 令和元年度に実施した一般依頼検査、輸入食品検査の件数は下記の通りであった。

区 分	一般依頼検査			輸入食品検査	合 計
	理化学検査	細菌学検査	その他検査		
件 数	6,868件	7,722件	470件	6,140件	21,200件

イ) 各検査項目の精確かつ効率的な検査方法の開発に努めるとともに、内部精度管理、内部点検を実施し信頼性確保に努めた。また、外部精度管理調査については、国内外の機関が行う調査に引続き参加し、検査精度の向上に努めた。

## 附 属 明 細 書

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和2年5月

一般社団法人 食肉科学技術研究所